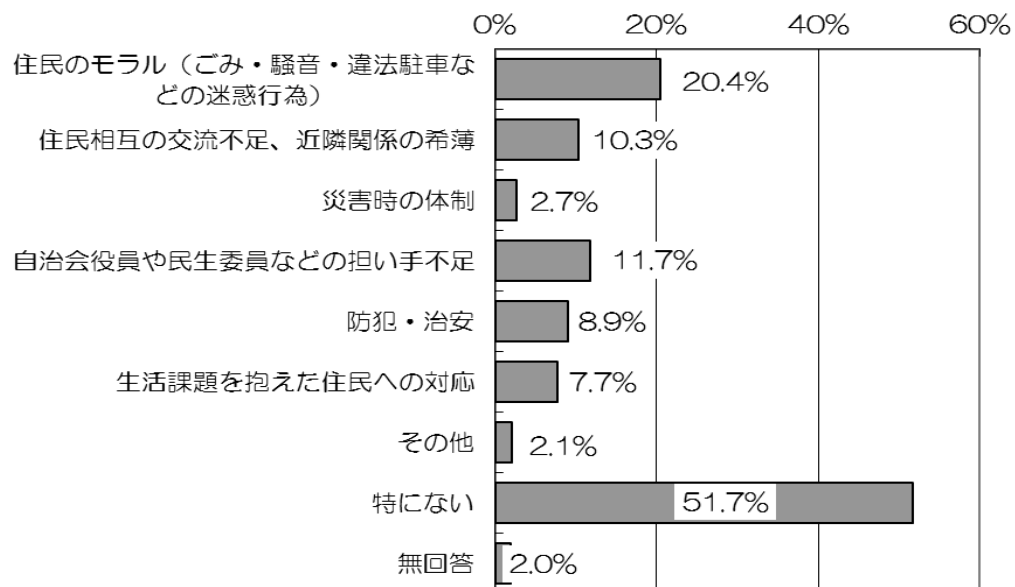


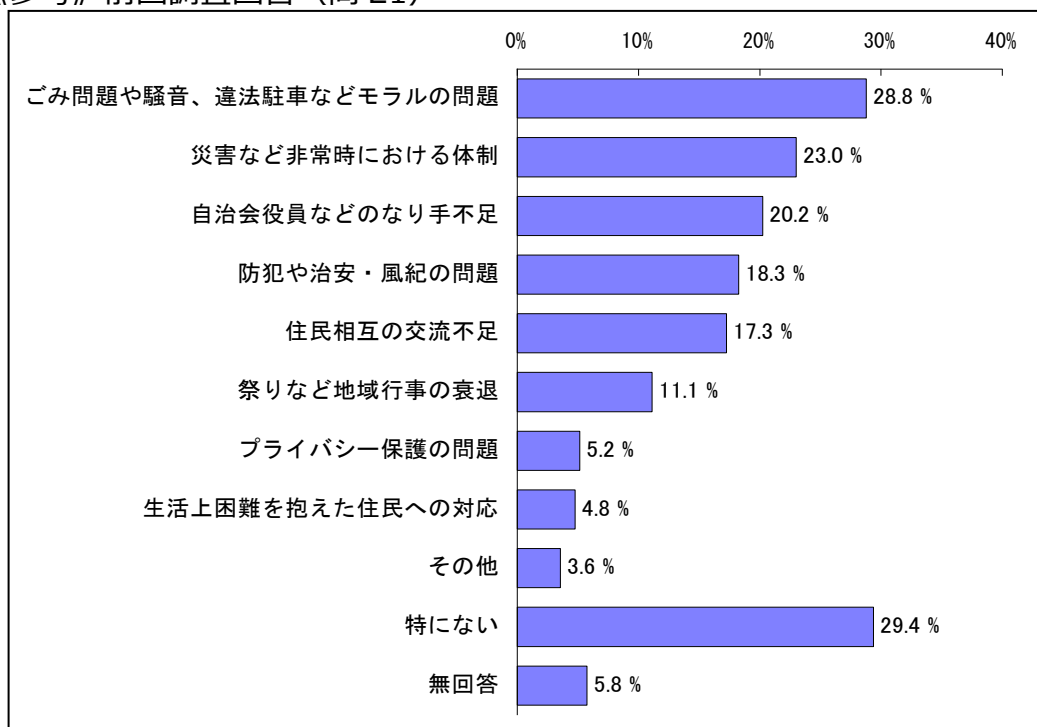
問 17 ご近所に関して、どのような困り事がありますか（答え「いくつでも」）



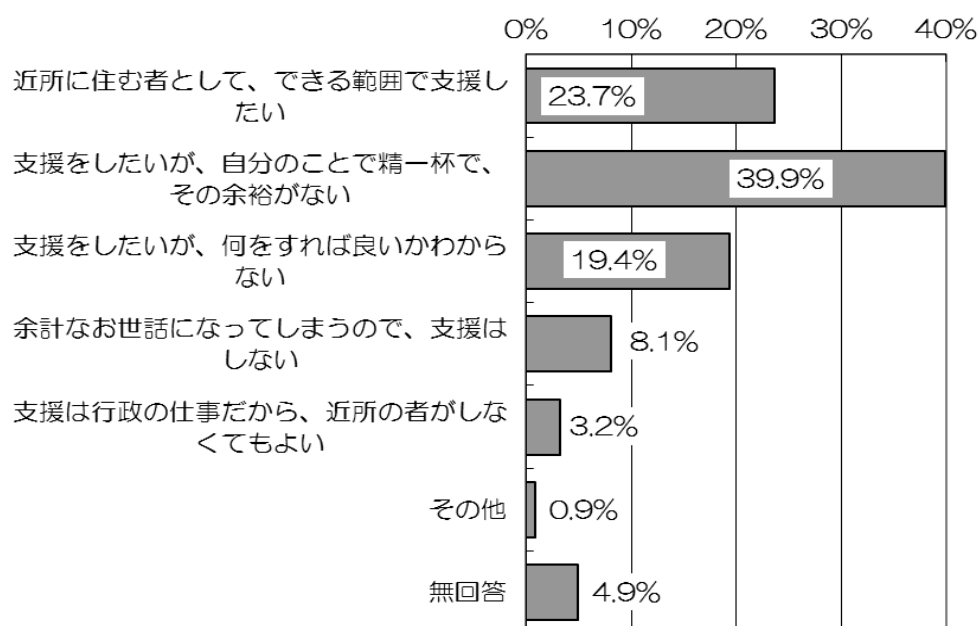
「住民のモラル（ごみ・騒音・違法駐車などの迷惑行為）」（20.4%）がもっとも高く、次いで「自治会役員や民生委員などの担い手不足」（11.7%）、「住民相互の交流不足、近隣関係の希薄」（10.3%）となっています。

なお、前回調査では、「ごみ問題や騒音、違法駐車等モラルの問題」、「災害等非常時における体制」、「自治会役員等のなり手不足」の順と

《参考》 前回調査回答（問 21）



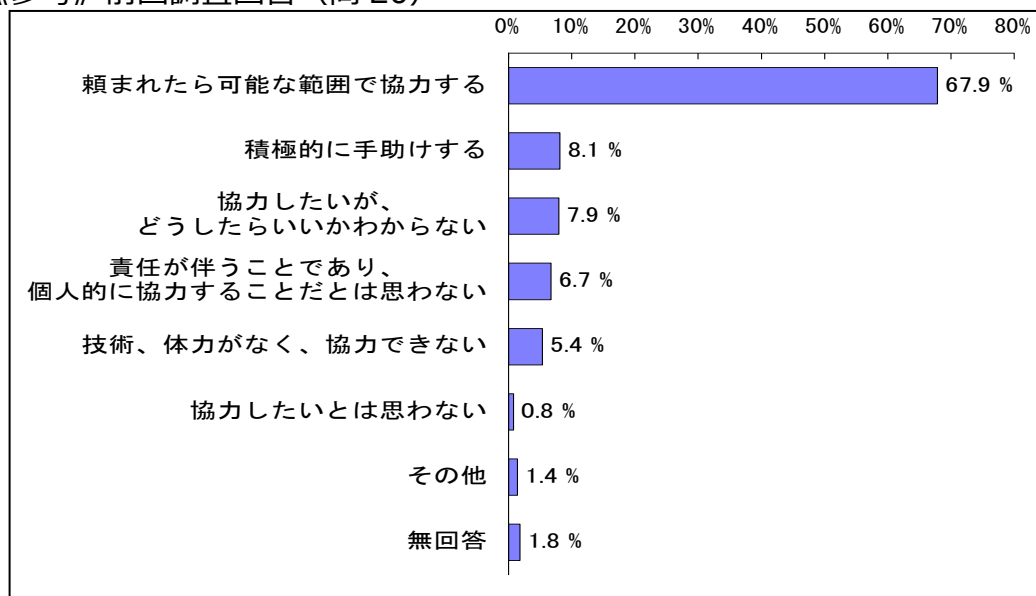
問 18 仮に、ご近所で身の回りのことや家事等に課題を抱える方がいた場合の解決方法について、あなたの考えに近いものはどれですか



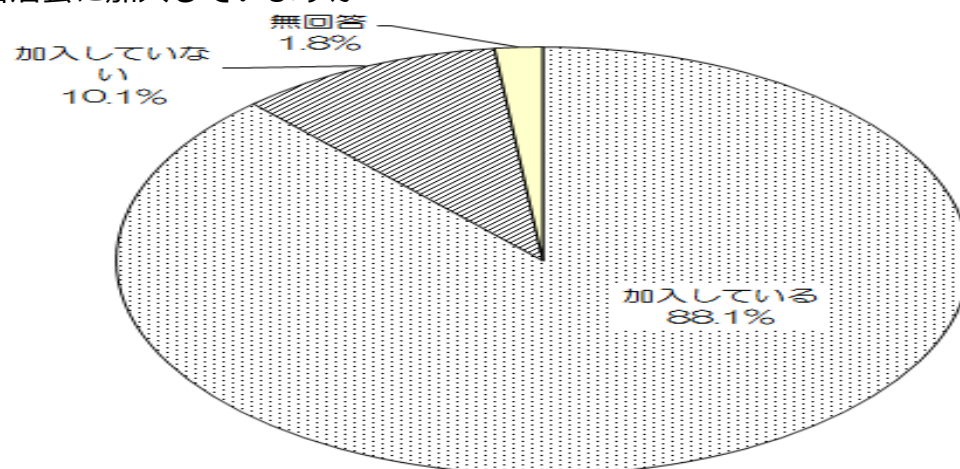
「支援をしたいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」（39.9%）がもっとも高く、次いで「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」（23.7%）となっています。「支援をしたいが、何をすれば良いかわからない」を含め、「支援をしたい」と考えている方が83.0%となっています。

なお、前回調査では、「頼まれたら可能な範囲で協力する」がもっとも高くなっています。

《参考》 前回調査回答（問 20）

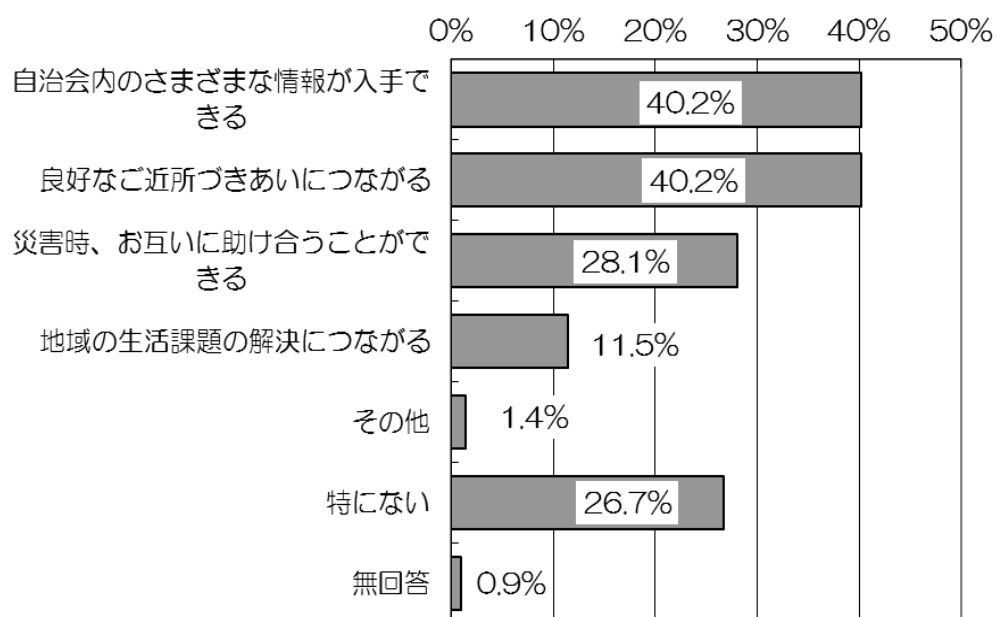


問 19 自治会に加入していますか



自治会に加入していると回答された方は全体の 88.1%となっています。

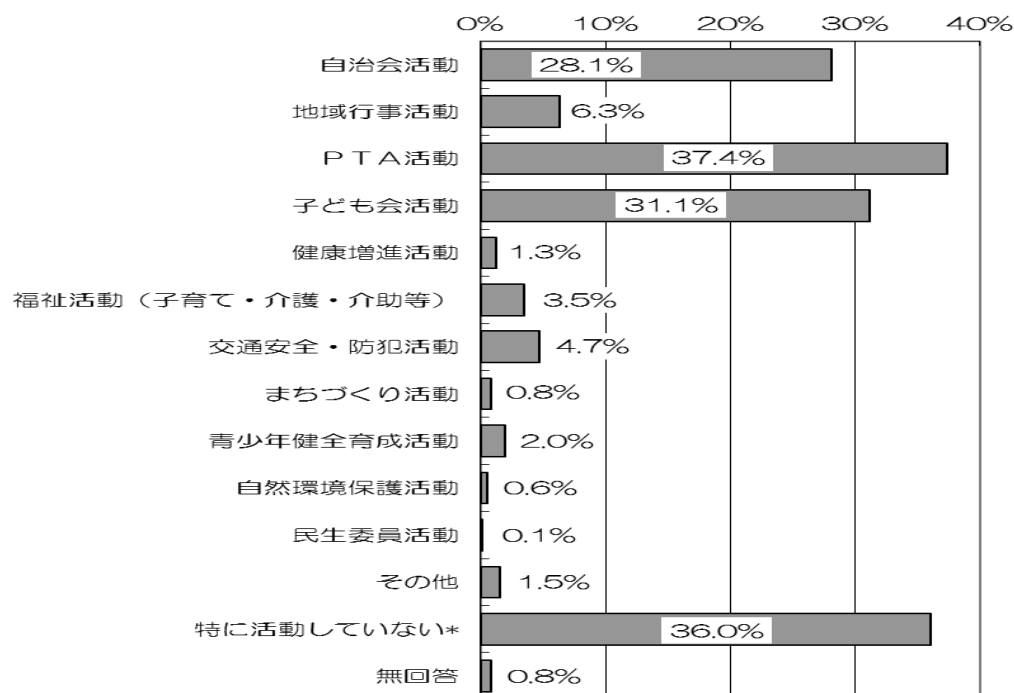
問 20 自治会に加入して良かったことは何ですか（答え「いくつでも」）



「自治会内のさまざまな情報が入手できる」（40.2%）、「良好なご近所づきあいにつながる」（40.2%）が高く、次いで「災害時、お互いに助け合うことができる」（28.1%）となっています。

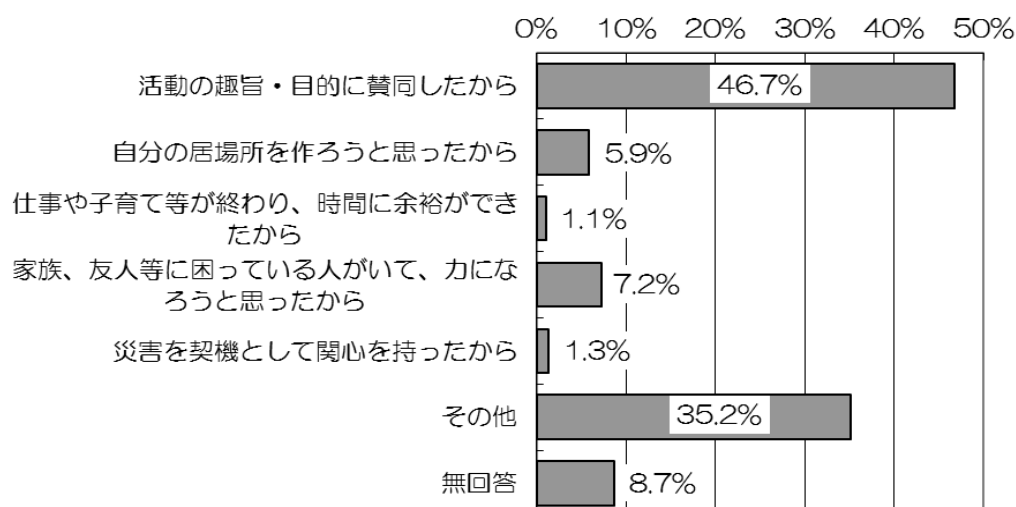
(5) 地域活動に関すること

問 21 あなたは現在、地域のつながりや支え合いを高めるような活動（地域活動）をされていますか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



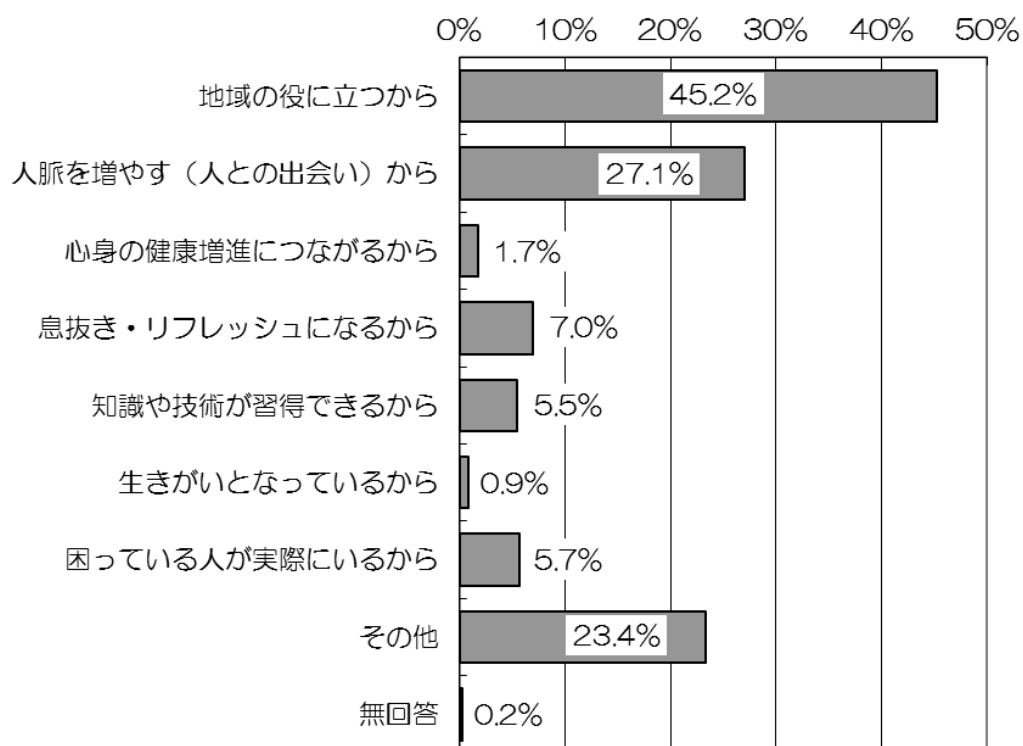
「PTA 活動」（37.4%）がもっとも高く、次いで「子ども会活動」（31.1%）、「自治会活動」（28.1%）となっています。

問 22 地域活動を始めた動機（キッカケ）は何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



「活動の趣旨・目的に賛同したから」（46.7%）がもっとも高くなっています。

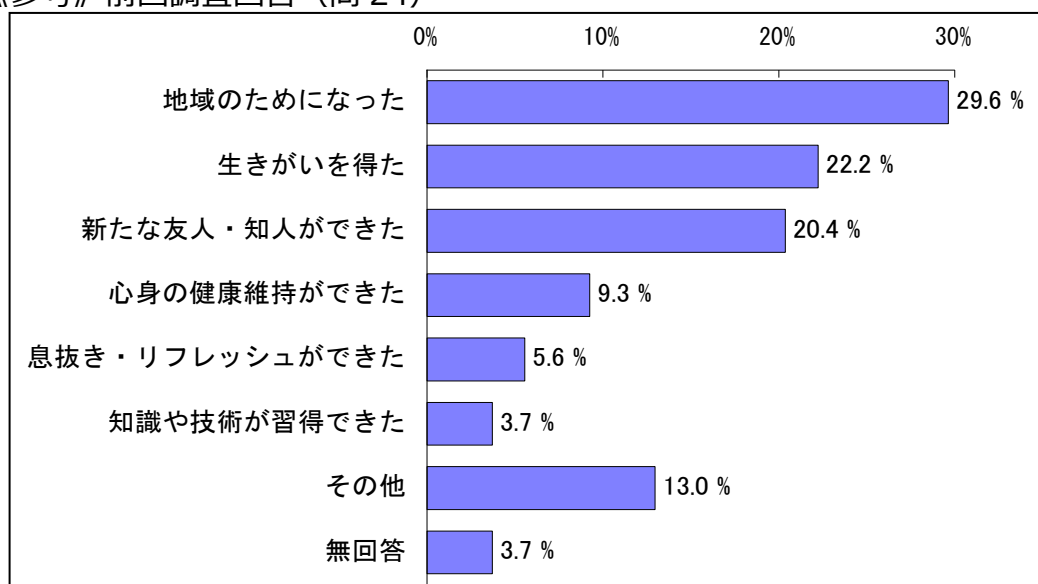
問 23 地域活動が続いている理由は何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



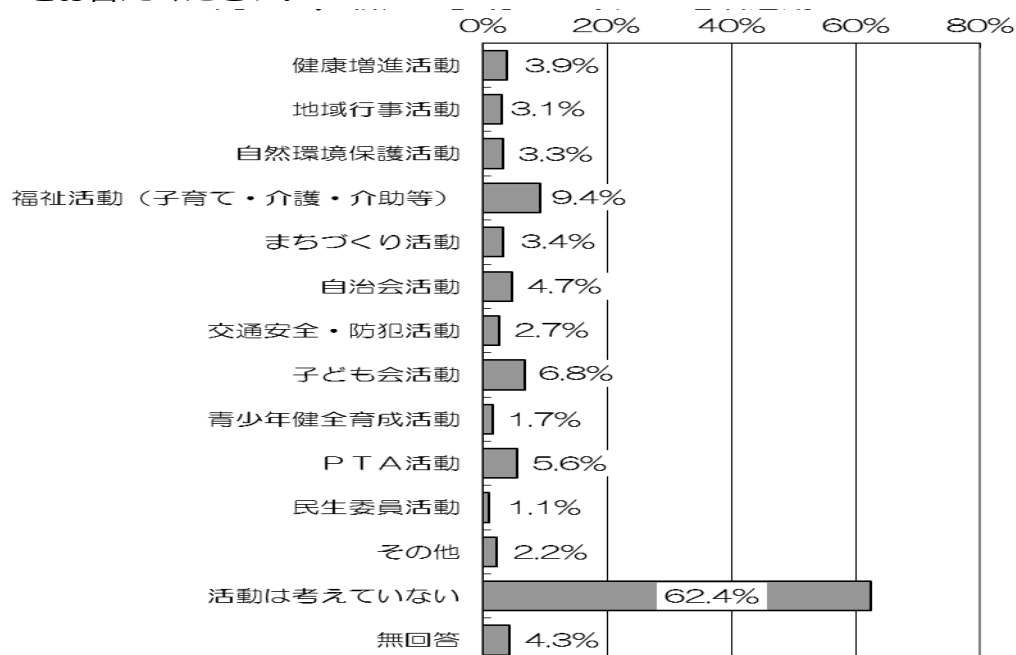
「地域の役に立つから」（45.2%）がもっとも高く、次いで「人脈を増やす（人との出会い）から」（27.1%）となっています。

なお、前回調査では「地域のためになった」、「生きがいを得た」、「新たな友人・知人ができた」の順となっています。

《参考》前回調査回答（問 24）



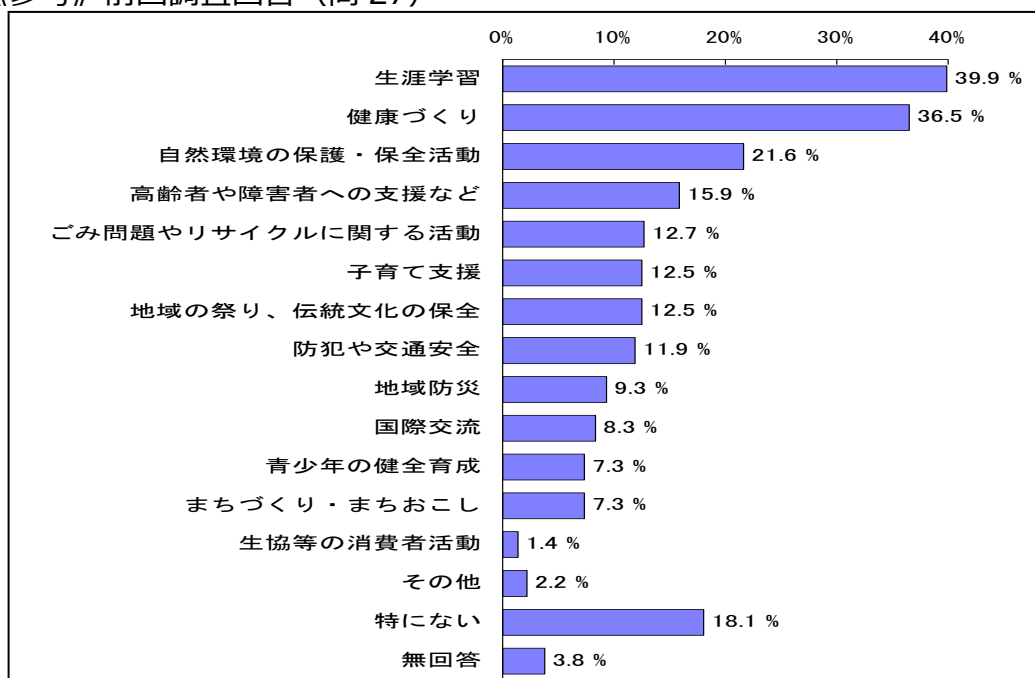
問 24 今後、新たに参加してみたい地域活動は何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



「福祉活動」(9.4%)、「子ども会活動」(6.8%)、「PTA 活動」(5.6%)の順となっています。児童・生徒の保護者のため、子どもに関する活動への関心の高さが伺えます。

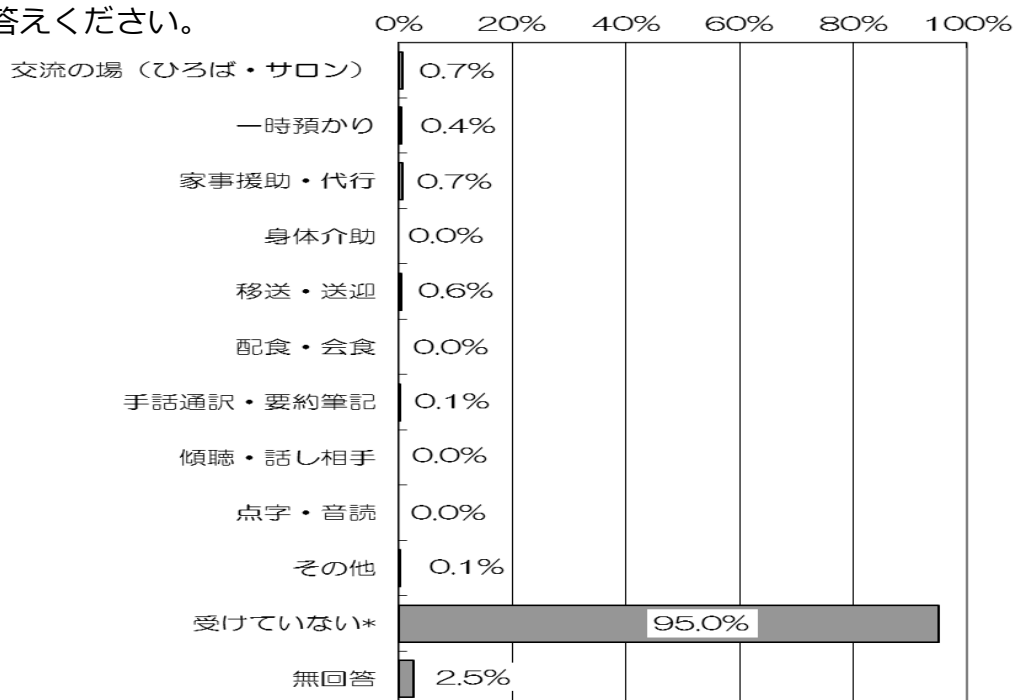
なお、前回調査では「生涯学習」、「健康づくり」、「自然環境の保護・保全活動」の順となっています。

《参考》 前回調査回答（問 27）



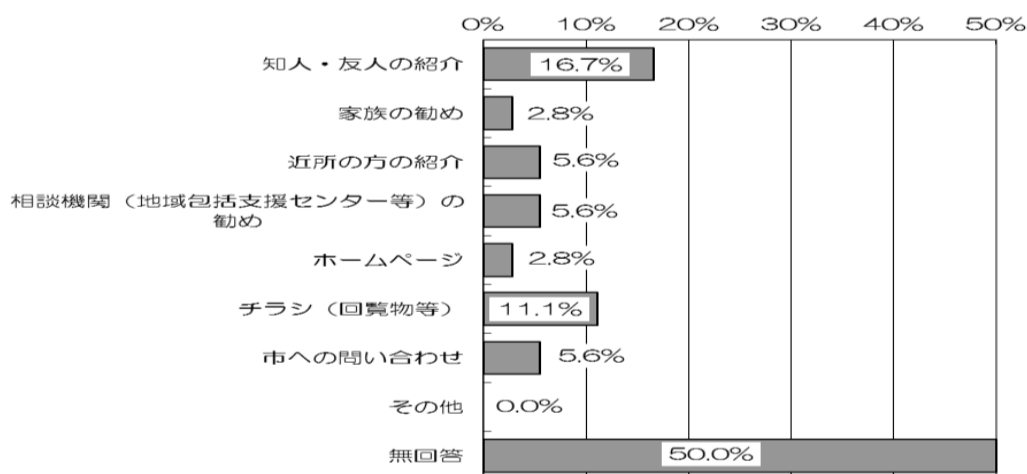
（６）地域団体等が行う福祉的活動の利用に関すること

問 25 あなたは現在、地域団体やNPO法人が行うさまざまな福祉的活動のうち、どのようなものを利用されていますか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



「家事援助・代行」(0.7%)、「交流の場（ひろば・サロン）」(0.7%) がもっとも高くなっています。

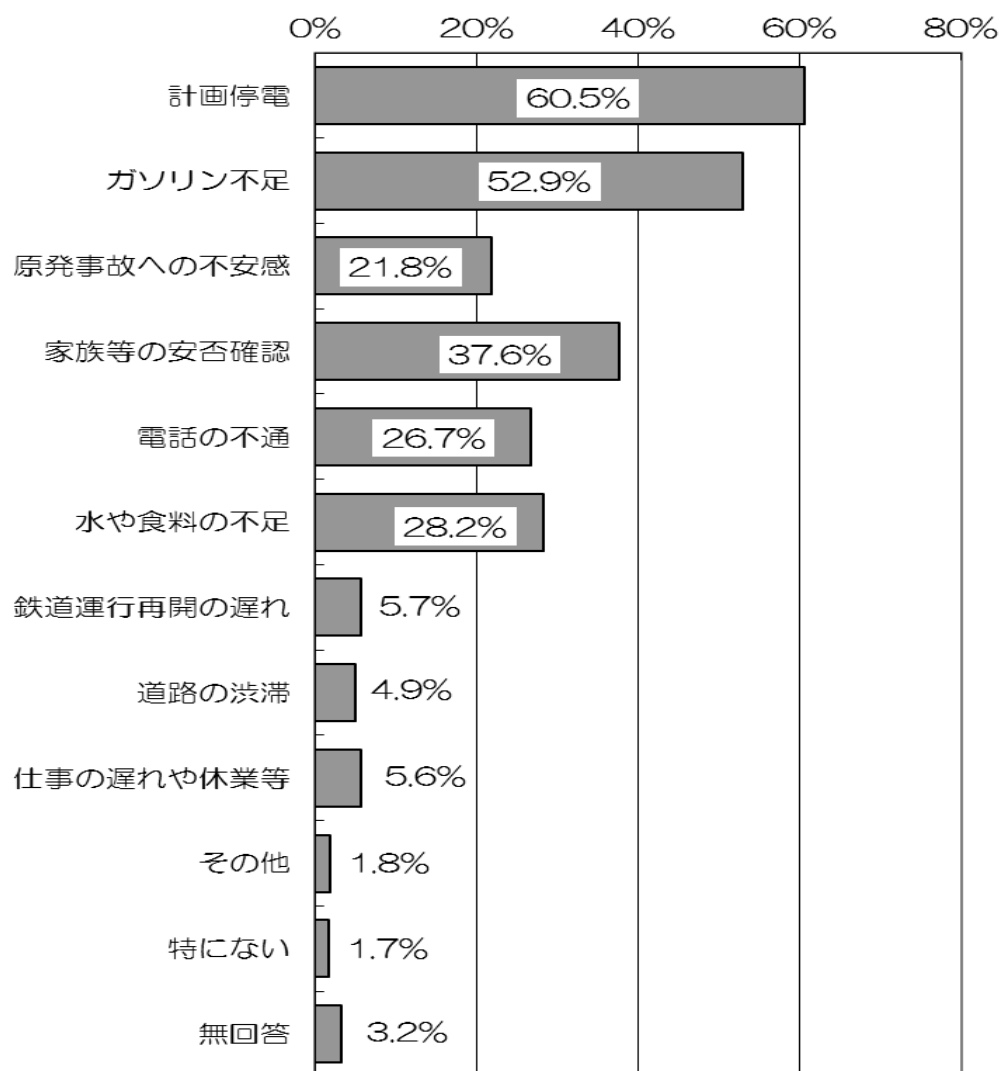
問 26 その活動を利用することになった動機（キッカケ）は何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



「知人・友人の紹介」(16.7%) がもっとも高く、次いで「チラシ」(11.1%) となっています。

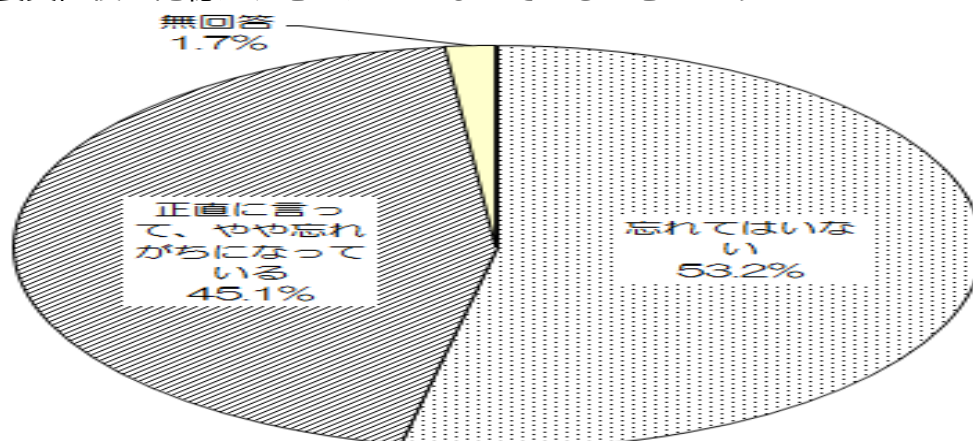
（７）震災を契機とした今後の活動に関すること

問 27 東日本大震災の発生直後において、あなた自身が特に困ったことは、何ですか。あてはまるところ（３つ以内）をお答えください。



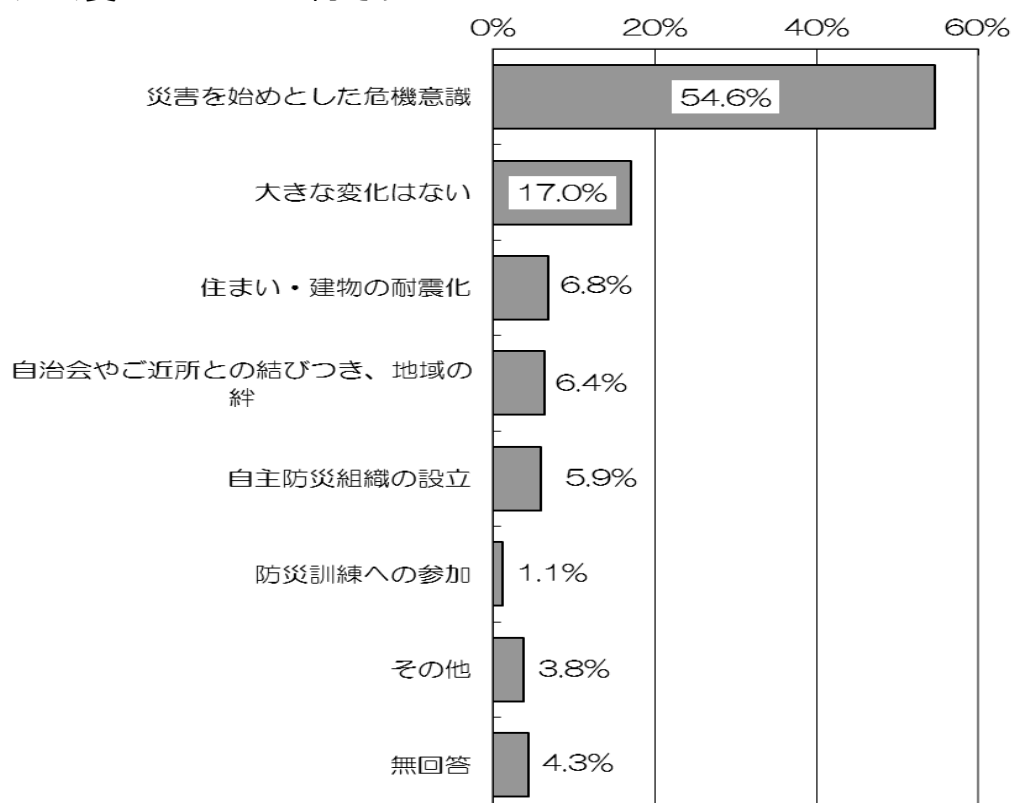
「計画停電」（60.5%）がもっとも高く、次いで「ガソリン不足」（52.9%）、「家族等の安否確認」（37.6%）となっています。

問 28 震災直後の記憶が、忘れがちになっていると思いますか



震災直後の記憶について「忘れてはいない」と回答された方は全体の53.2%となっています。

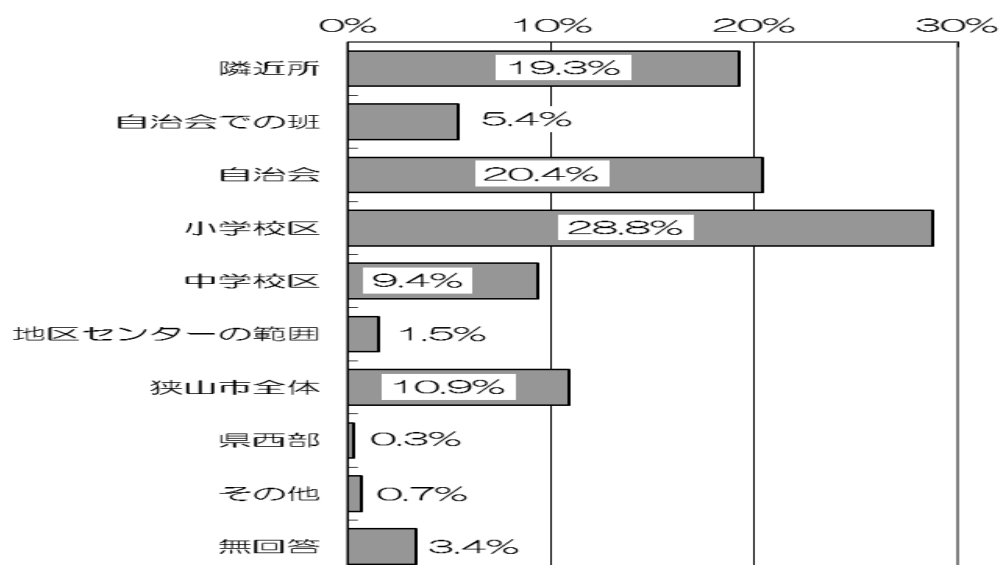
問 29 あなたは、震災が発生する「前」と「後」とを比べ、価値観や意識が最も大きく変わったことは何ですか



「災害に対する危機意識、備え」(54.6%) がもっとも高く、次いで「大きな変化はない」(17.0%)、「住まい・建物の耐震化」(6.8%) となっています。

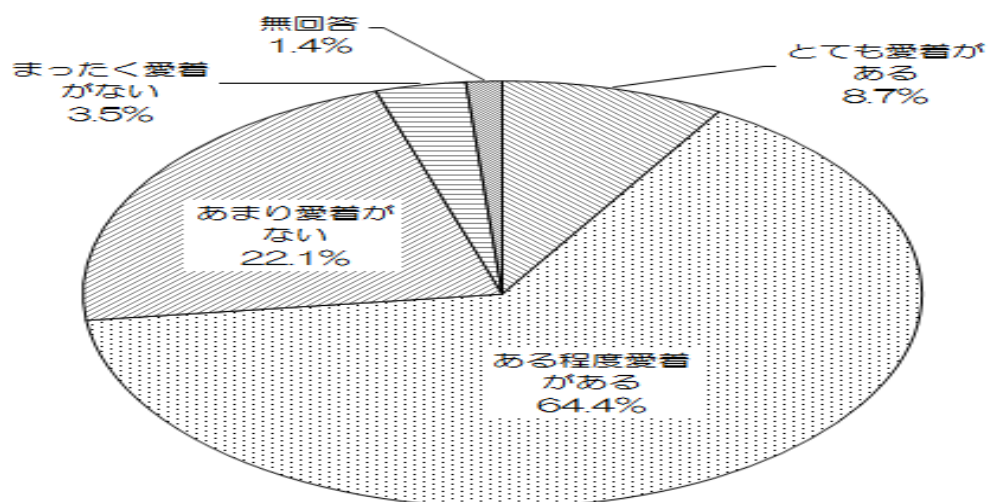
(8) 身近に感じる地域に関すること

問 30 あなたにとって身近に感じる「地域」とは、どのような範囲ととらえていますか。



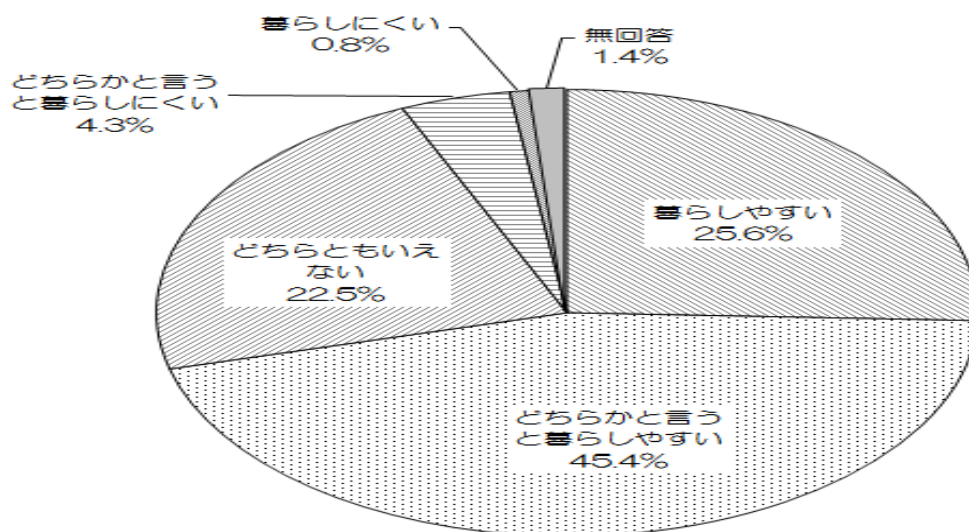
「小学校区」(28.8%)がもっとも高く、次いで「自治会」(20.4%)、「隣近所」(19.3%)となっています。

問 31 「地域」に対する愛着がありますか。



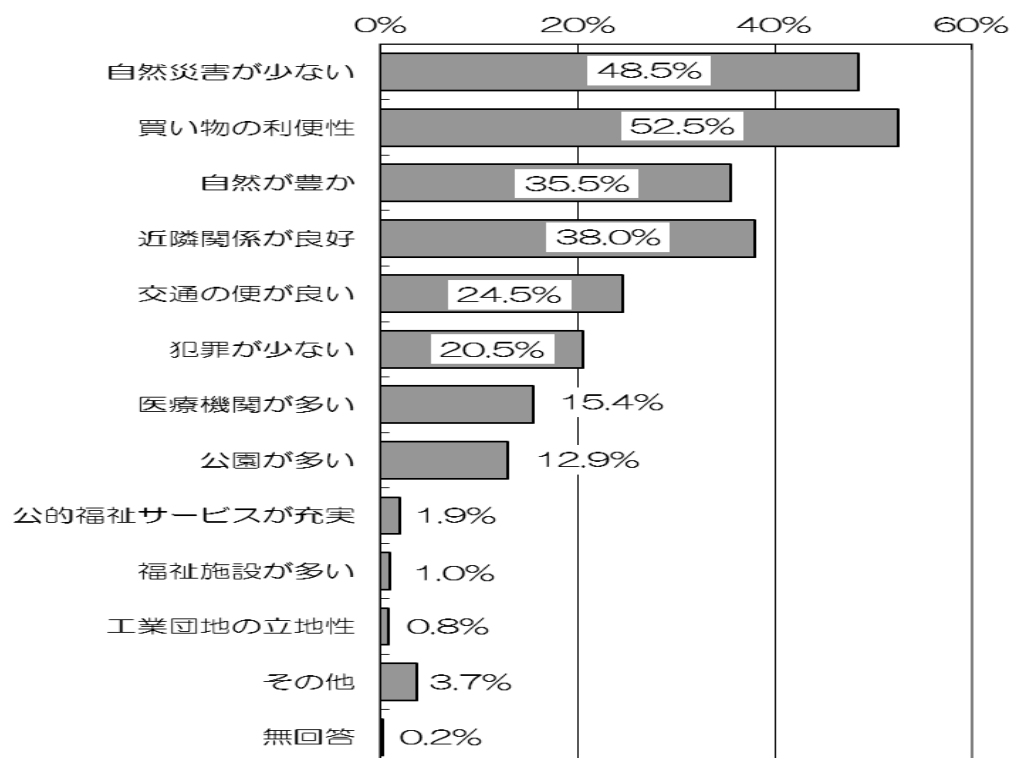
「とても愛着がある」「ある程度愛着がある」と回答された方が全体の73.1%となっています。

問 32 あなたにとって「地域」は暮らしやすいですか。



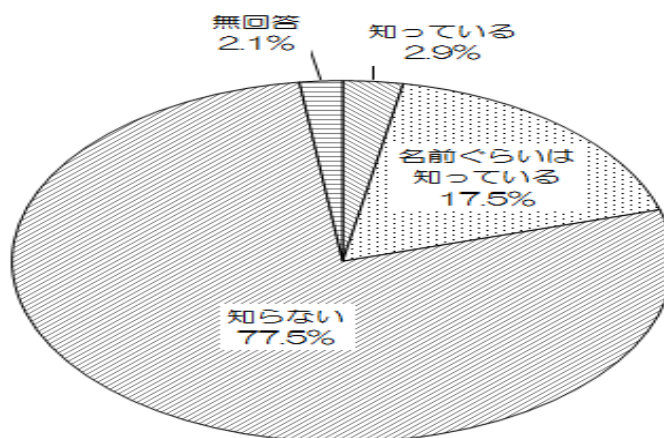
「暮らしやすい」「どちらかと言うと暮らしやすい」と回答された方が全体の71.0%となっています。

問 33 暮らしやすいと思う理由は何ですか。あてはまるところ（全て）をお答えください。



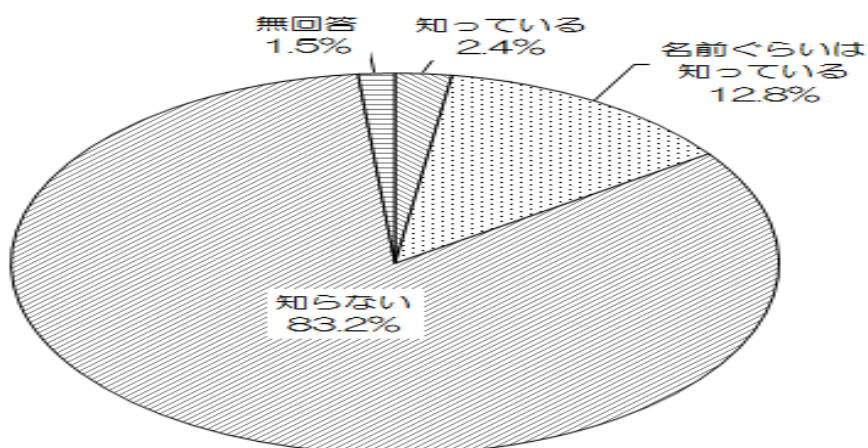
「買い物の利便性」(52.5%) がもっとも高く、次いで「自然災害が少ない」(48.5%)、「近隣関係が良好」(38.0%) となっています。

問 34 市が策定した「狭山市地域福祉計画」を知っていますか。



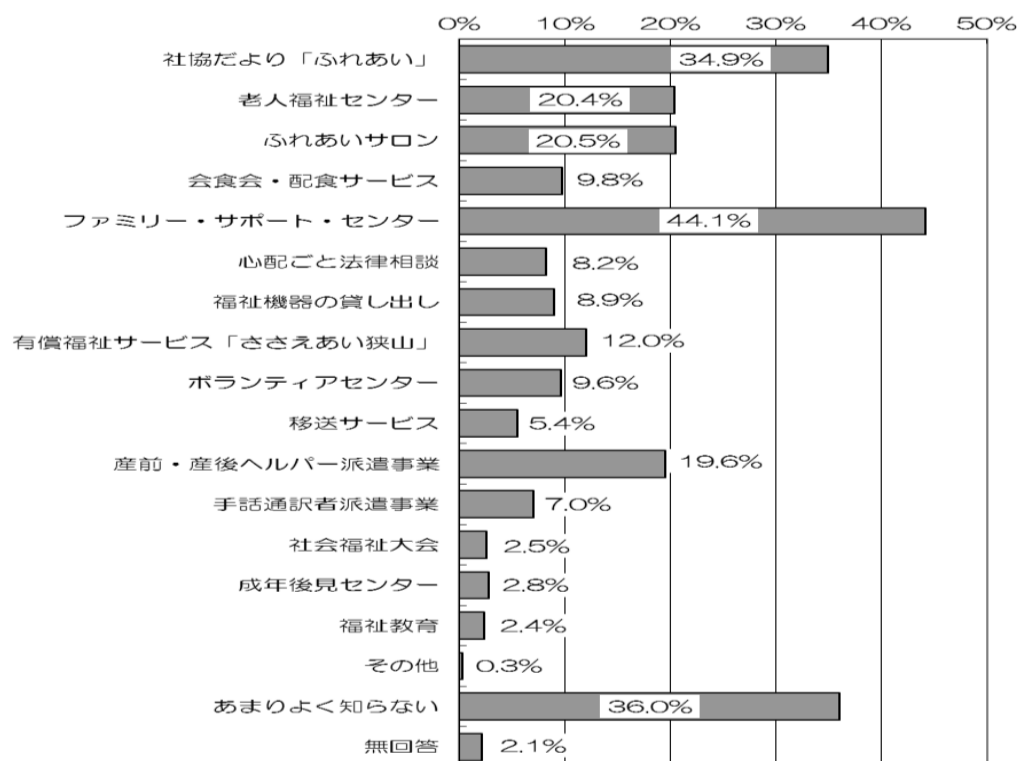
「知っている」「名前くらいは知っている」と回答された方が全体の20.4%となっています。

問 35 狭山市社会福祉協議会が策定した「狭山市地域福祉活動計画」を知っていますか



「知っている」「名前くらいは知っている」と回答された方が全体の15.2%となっています。

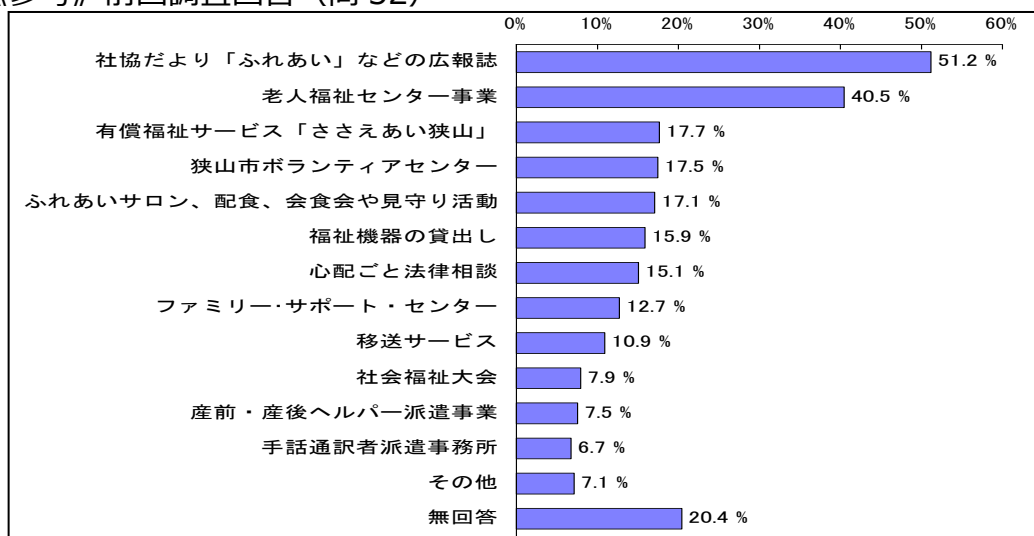
問 36 狭山市社会福祉協議会が行っている各種事業・サービスのうち、あなたが知っているものを教えてください。あてはまるところ（全て）をお答えください。



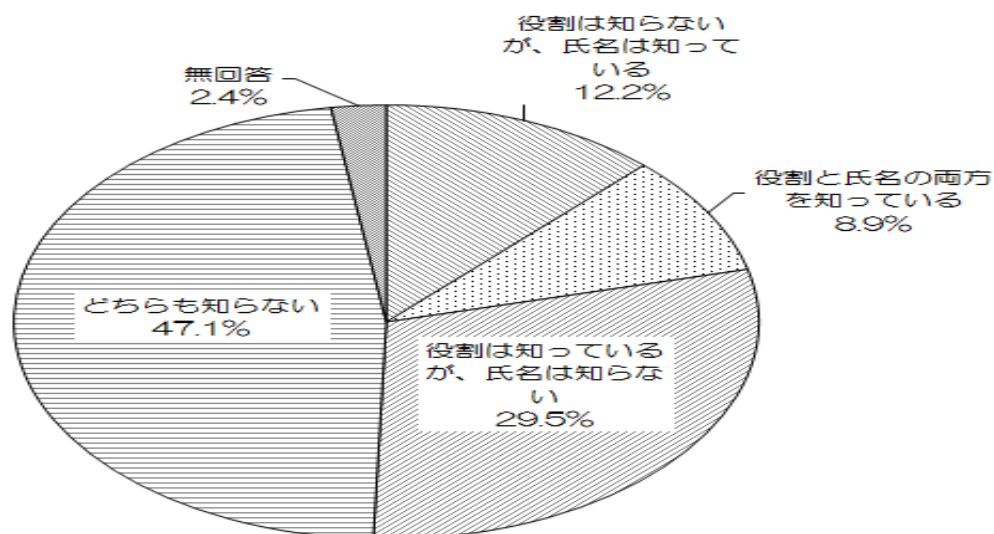
「ファミリー・サポート・センター」（44.1%）がもっとも高く、次いで「社協だより「ふれあい」」（34.9%）となっています。

なお、前回調査では、「社協だより「ふれあい」」「老人福祉センター」の順となっており、児童・生徒の保護者を対象としたため、子育て支援に関する事業の認知度が高くなっています。

《参考》 前回調査回答（問 32）



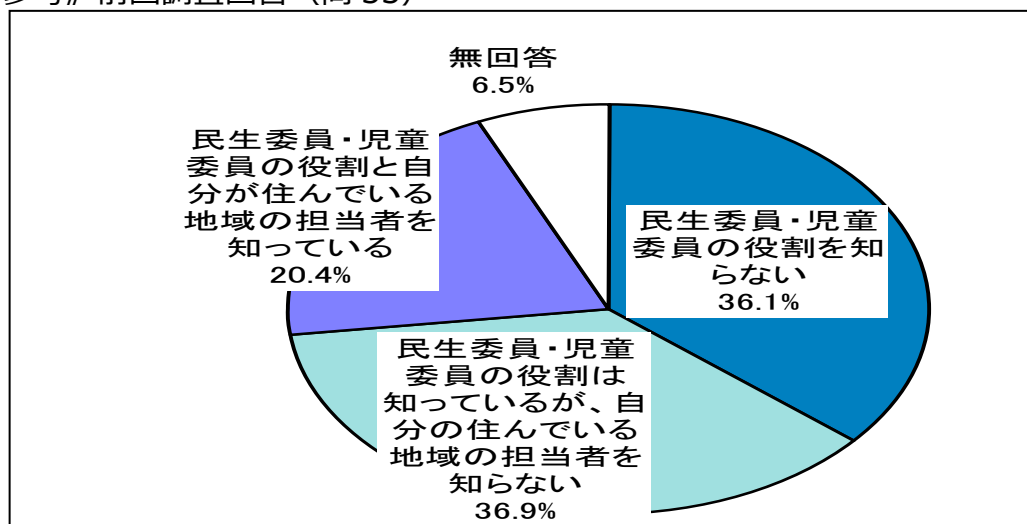
問 37 あなたは、民生委員の役割や担当民生委員の氏名を知っていますか



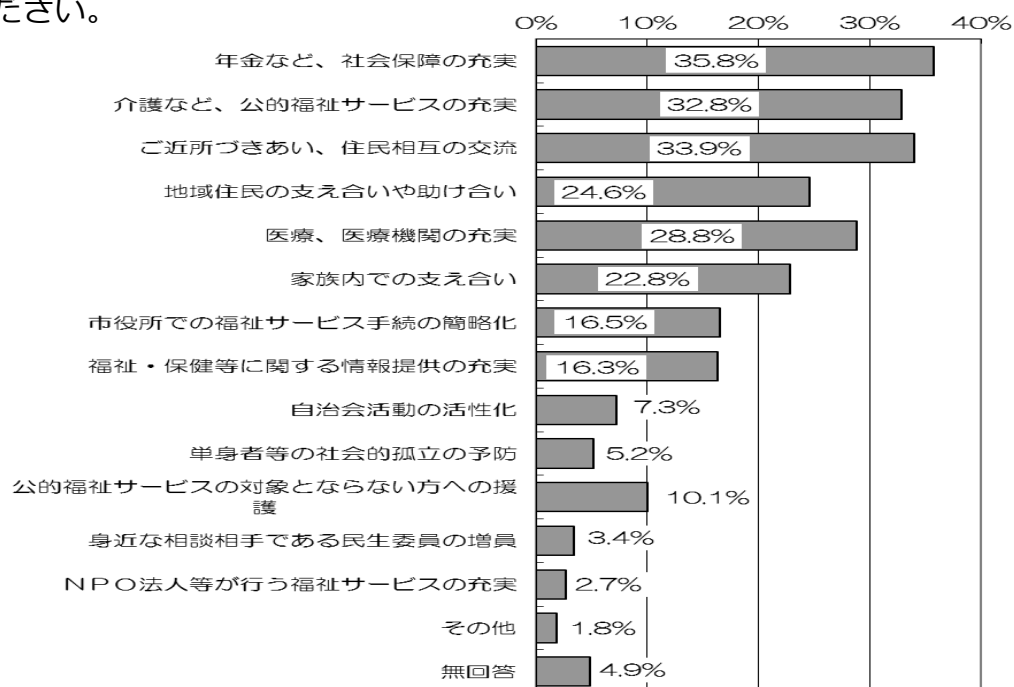
「民生委員の役割と担当民生委員の氏名の両方を知っている」と回答された方は全体の 8.9%となっています。

なお、前回調査では「民生委員・児童委員の役割と自分が住んでいる地域の担当者を知っている」と回答された方は全体の 20.4%となっており、前回調査から大幅に減少しています。

《参考》前回調査回答（問 33）



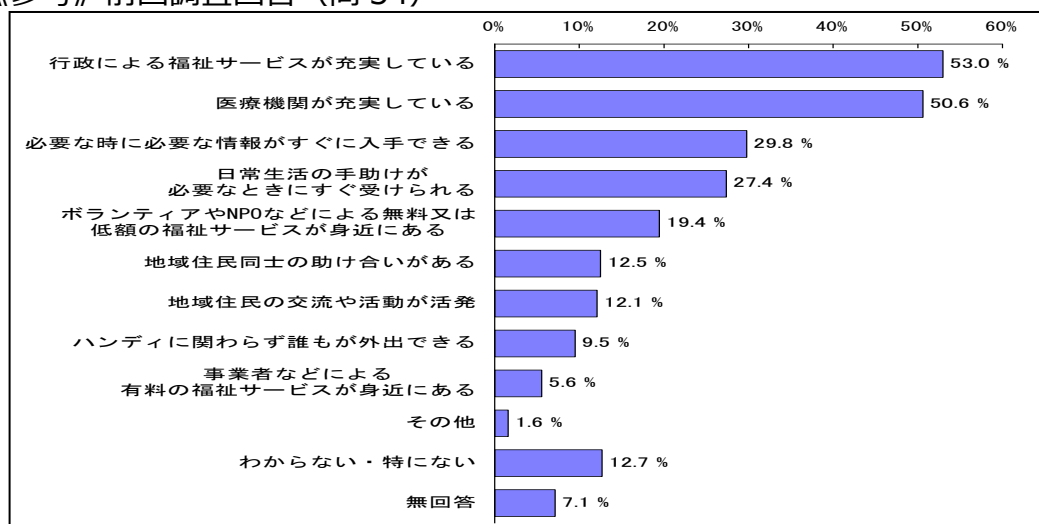
問 38 暮らしやすい地域にするためには、地域のあり方や福祉サービスをどのようにしていく必要がありますか。あてはまるところ（3つ以内）をお答えください。



「年金など社会保障の充実」（35.8%）がもっとも高く、次いで「ご近所づきあい、住民相互の交流」（33.9%）、「介護など、公的福祉サービスの充実」（32.8%）となっています。

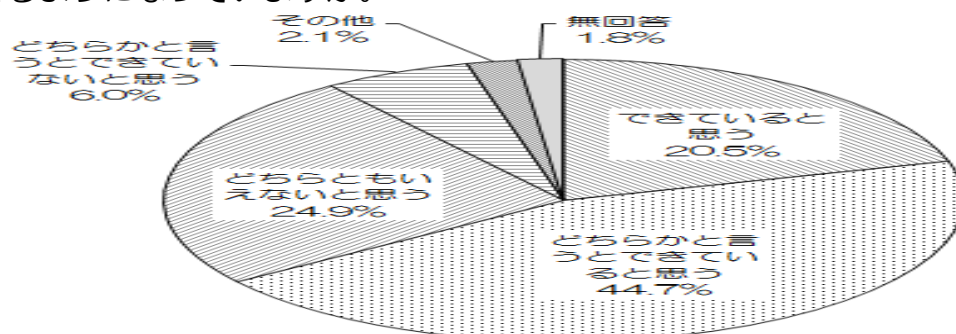
なお、前回調査では「行政による福祉サービスが充実している」、「医療機関が充実している」、「必要な時に必要な情報がすぐに入手できる」の順となっています。前回調査と比べ、「ご近所づきあい、住民相互の交流」や「地域住民の支え合いや助け合い」といった回答が増えています。

《参考》 前回調査回答（問 34）



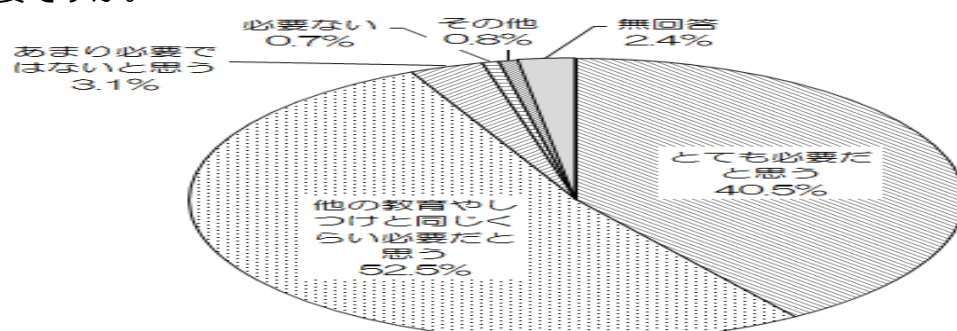
(9) 福祉教育に関すること

問 39 お子さんは、他人の良いところに気がついたり、困っている方を手助けできるようになっていますか。



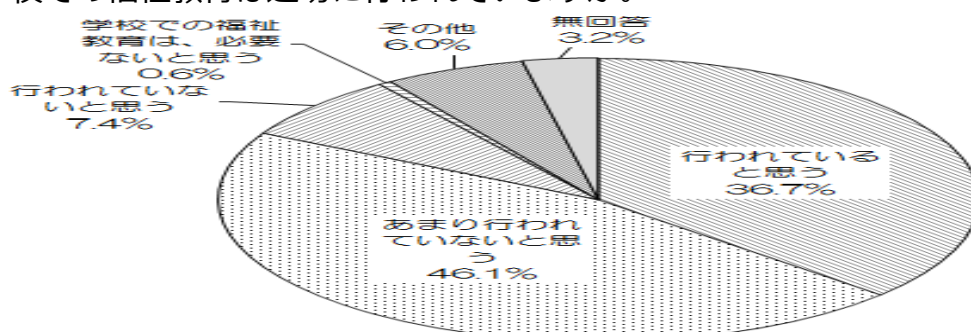
子どもの態度として「できていると思う」「どちらかと言うとできていると思う」と回答された方が全体の 65.2%となっています。

問 40 お年寄りなどへの配慮や接し方等について考え・実践する「福祉教育」は必要ですか。



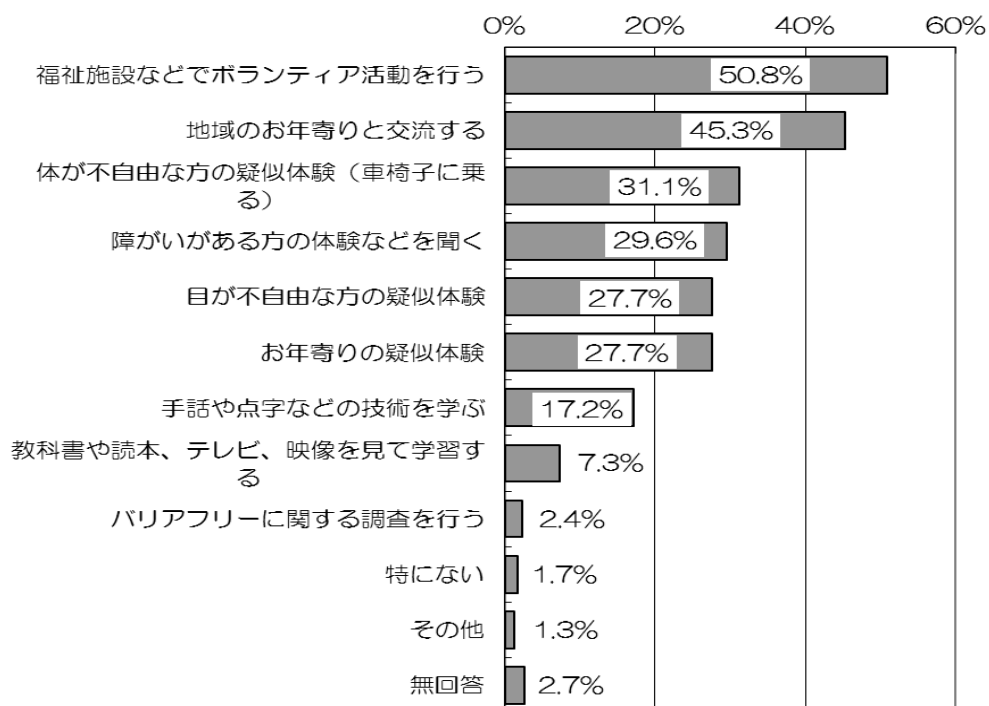
「他の教育やしつけと同じくらい必要だと思う」(52.5%) がもっとも高く、必要だと回答された方が全体の 93.0%となっています。

問 41 学校での福祉教育は適切に行われていますか。



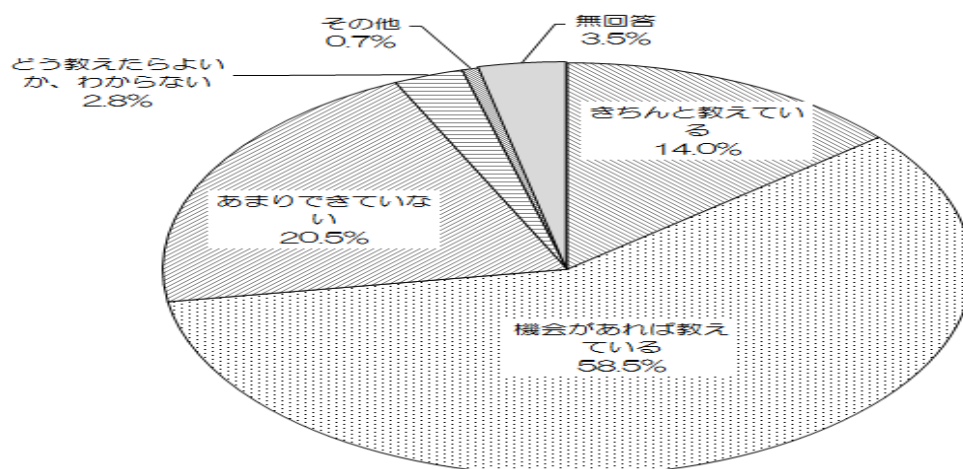
「行われていると思う」と回答された方が全体の 36.7%となっています。

問 42 お子さんに対する福祉教育について、効果的だと思う方法をお答えください。あてはまるところ（3 つ以内）をお答えください。



「福祉施設などでボランティア活動を行う」（50.8%）がもっとも高く、次いで「地域のお年寄り（おじいさんやおばあさんなど）と交流する」（45.3%）、「体が不自由な方の疑似体験（車椅子に乗る）」（31.1%）となっています。

問 43 お年寄りなどへの配慮について、家庭ではお子さんに対し、どの程度教えていますか。



「機会があれば教えている・教えるべきだ」（58.5%）がもっとも高く、教えていると回答された方が全体の 72.5%となっています。

(10) 自由意見

問 44 家庭において、お子さんに対する「福祉教育」をどのように進めておられますか。あなたの考えやアイデアなどをご記入ください。

主な意見

- 人を思いやる心を育てることが福祉教育の入り口である。
- 親が実践し、それを伝えていく。親が体験したことを伝えていく
- 授業での福祉体験が、子どもと福祉について話す良い機会になった。
- 家族や近所の人と、日頃から接する。
- 日頃から接する機会を持たせるために、学校での施設訪問やボランティア活動が必要。
- 小学校までは子どもと地域とのつながりがある。中学校・高校では、地域とのつながりがないので、中学校での福祉教育が必要。
- 座学だけでなく、施設訪問・ボランティアなどの体験活動が必要。
- 折に触れて話をするが、福祉教育をしているという意識はない。
- 日々の生活で忙しく、特に家庭での福祉教育はしていない。
- 親も高齢者や障がい者にどう接すれば良いのか分からないので、福祉教育をしていない。
- 当たり前のことができるようになりなさいと、日頃から声かけ。
- 子どもの考えを促すような声かけをしている。

ア. 親（親族）の体験談、家庭での促し方

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 困っている人に<u>手をさしのべてきた体験を聞かせるように</u>しています。● 身内の体験のみですが、<u>親である私たちが実践していくこと</u>だと思えます。● 車椅子やお年寄りの疑似体験などの授業があったので、福祉について子と話すいい機会になりました。私の職場にも様々な障がいがある方々が来られるので、<u>どういう対応をしたら喜ばれたなど、自分の体験を話すように</u>しています。 | <ul style="list-style-type: none">● 祖父母がボランティアで福祉施設を廻っており、月に一度は<u>子ども達を連れてお年寄りとの交流</u>をしています。● 私は病院で看護助手をしており、大勢のお年寄りと関わっています。子ども達には今日の出来事を話すことはありますが、教育として話し合うことはしていませんでした。これからは<u>自分の体験したことを伝えていきたい</u>です。 <p>(次のページに続きます)</p> |
|--|---|

- 日々の生活で親が教えていくべきと考えます。困っている人や障がいを持っている人に声かけを、親が自然にするようにしています。
- 私自身が子どもの頃に教わってきたことや、今までに経験してきたことを話し、伝えています。以前、障がいをもった方のお話で「障害ではなく個性として見てください。」とおっしゃった言葉がとても心に残っています。
- 場面、場面で親が声かけをし、教える。知ってもらうことで、本人が学んでいけばよいと思います。
- 兄弟が多いため、小さい子の面倒を見る、助けるなどが当たり前のようになれる人になさいと、常に声かけしている
- 特別に扱うのではなく、みんな年を取るということを知らせています。自分の努力次第で、いくらでも輝いた年の取り方が出来るから母がお手本を示すと話し、私は「かわいいおばあちゃんになる。」と言っています。
- 我が家に、車椅子の祖父が同居しており、子にとって「障がい者」は特別な存在ではないように思います。「老いていくこと＝出来ることが少しずつ減っていくこと」という点を、肌で感じとっているようです。
- 社会福祉学科を出ましたので、家には点字機や手話の本があり、時々、教えています。人を思いやる心が福祉教育の入り口ではないかと思います。
- 子どもと外出した際は、なぜ点字ブロックの上に自転車などをとめてはいけないうか、駐車場で車イスの人はなぜ広いスペースが必要なのかを教える。
- 自分から手伝える事があるか考えて行動するように話している。身近な親族に視覚障がいのある者がいるので、「気遣う」、「相手を思いやる」ことを大切にしています。
- 日頃、お年寄りと接する機会があまりないので、小学生のうちから老人ホームのボランティアや訪問体験をさせたいです。
- 夏休みに子どもを連れてデイケアに行き、ボランティア活動をしましたが、このような機会があれば、また連れて行きたいと思います。
- 単身（独居）老人に、時々、声かけします。家族の中にボランティア活動に参加している者がいます。子どもはそういう家族を見ていると思います。

イ. 学校への要望等

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 主人や私の意見が「正しい知識」として伝わっているかは不安です。<u>義務教育期間中に、少しでも介護などの福祉教育をお願いします。</u>● 福祉施設で働いていますが、子供に教えるのはとても難しく、おしつけではなく、<u>子どもが自分で感じてくれる場を学校で作って欲しい</u>と思います。● 祖母と同居しているので、自然とお年寄りとは接することが多い環境です。家庭環境で異なるので、<u>学校でもお年寄りや障がいのある方とふれあう場があると良い</u>ですね。● 正直言って、福祉教育をしている意識は有りません。折に触れて話し合ったりはしていますが、<u>学校で子どもが参加できるボランティア活動など、積極的に提案願えれば</u>と思います。 | <ul style="list-style-type: none">● 日常的に祖父母やご近所と接して、学び考えることはたくさんあります。<u>「地域交流」の時間はとても大切なので、4年生以外でも実施願います。</u>● もう少し<u>学校でボランティアをする機会を増やして</u>頂ければと思います。● 三世代同居なので、自然と祖母の世話などしているようです。小学校までは子ども会と自治会の交流はありますが、中高生と地区のつながりが有りません。中学生までは地元ですので、<u>中学での福祉教育の充実が必要です。</u>● <u>授業の中に福祉施設・老人ホーム等でのボランティアをする時間を作ってください。</u> |
|--|--|

ウ. その他

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 赤い羽根共同募金や歳末助けあい募金などの活動に積極的に参加している。● 税金を使っの福祉サービスも良いが、産業として雇用が生まれるように、市内で開業できるような制度を作るべき。教育も座学だけでなく、実際に施設を訪問して体験をさせると良い。 | <ul style="list-style-type: none">● 家庭では特に教えていません。私達でも解らないのが現状で、自ら老人の方や障害者に対して、どこまで手を貸していいものかが理解できなければ、「小さな親切、大きなお世話」になりかねない問題ではないでしょうか。<u>子どもの頃からボランティア等で経験しておく</u>と良いのですが。 |
|--|--|

問 45 その他、「地域のつながりと支え合い」を高めていくためのご意見や、ご提案等がありましたら、ぜひご記入ください。また、東日本大震災を契機として、日頃の生活の中で、「地域のつながりと支え合いについての必要性」や「地域の力で助かったことのエピソード」等がありましたら、差し支えない範囲でご記入ください。

主な意見

- 親が近所と交流を持ち、子どもに示す。
- 近所と話をする場を持つ。
- 地域交流できる機会を提供し、顔見知りとなる。
- 少し面倒かも知れないが、地域行事に参加することで、地域とのつながりができ、万一の時に助け合える。
- 普段からの交流がないと、災害時にどこまでサポートして良いか困る。
- 災害時に、親が不在でも帰宅させた学校の対応に不満。
- 災害時、一言、声かけをしてもらい、安心したので自分もそうしたい。
- 災害時や困った時の情報伝達が充実すると良い。
- 福祉避難所の対策を検討してほしい。
- 地域行事に無関心な方々へのアプローチをどうすれば良いのか。
- 全員が自治会加入をし、回覧板などを廻すことで、近所の方の名前を知ることができる。表札がないため、隣人の名前も分からずに、怖い。
- 子どもの見守り、助かるが、子どもたちの知っている人だと、もっと安心できる。

ア. 地域のつながりと支え合いの必要性

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 今は昔のような地域でのイベント（夏祭り・運動会）には子どもが少ないし、働いている女性も多いので、ご近所との関係も希薄です。<u>イベントよりは防犯・防災で地域の結束を図っていければ良いですね。</u>● <u>自治会加入が何より大切</u>です。娘を強く怒った時、近所の方に止めてもらいました。その時は恥ずかしくてたまりませんでした。今は感謝です。● 昼間の時間帯に子ども達の安全を見守ってくださるのは、本当に助かりますし、安心して仕事ができます。子ども達も知っている方々だと安心です。● 祖母はラジオ体操で交流を深めていますが、私達世代は、<u>地域との交流は無いに等しい。</u>● 数年前から<u>地域の運動会に参加</u>している。夜の慰労会では、<u>普段、交流のない地域の老若男女と楽しい時間を過ご</u>しています。若い方には少し「面倒」かも知れないが、そういう事から地域のつながりが生まれ、万が一の時に助け合うことが出来る。 | <ul style="list-style-type: none">● 地区の活動、子ども会等、負担なく、楽しく参加できるように工夫し、<u>地元のつながりを深めたい</u>と思います。● 自治会やボランティア、小学校などが中心になって、<u>地域交流ができる機会を提供</u>し、顔見知りになることで人間関係が深まり、支え合いの精神が芽ばえると良い。● 我们是集合住宅で、<u>自治会に加入</u>。大半の方は未加入。地域の情報を回覧板で確認したり、ゴミのこと等、生活に必要なことで、全住民が加入すべきだと思います。加入し、回覧板が回れば、<u>住人の名前だけでもわかります</u>。表札もないような現代、隣人の名前もわからず、怖いことです。● <u>近所に同世代や子育て中のママさんが多く</u>、恵まれた近所づきあいをしています。学校のつながりで親同士の付き合いも支え合いもあり、仲間として相談や愚痴も聞いてもらっています。 |
|--|--|

イ. 震災を契機としたもの

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 私の自治会班では全員分の<u>バンダナを購入し、ケガをした時に使える、同じ班だとわかる等に活用</u>します。提案は80代のお年寄りですが、そのような方がいるのは大きな財産。● 震災後、<u>障がい者の避難</u>は特に検討されていないことを知った。障がい者の避難所生活は大変困難だと思うので早急に市でも対策を。● 震災直後、被災地でないのに、米やパン、水など様々な物の買い占めという現象。非常に良くないことです。<u>自分さえ良ければそれで良いという考えを捨てる</u>ことが第一歩。 | <ul style="list-style-type: none">● 震災当時、両親は勤めに出ており、留守の確認もせずに、子ども達を帰宅させた<u>小学校の対応に不満</u>を感じた。● 震災時、私は自宅にいた。近所の子の友達は両親ともに都内勤務で、子だけで家にいた。親との連絡がつかず、我が家に来て貰ったが、親さんと<u>普段のお付き合いが無いので、どこまでサポートしていいのか困った</u>。この経験から、我が家では有事に備え、隣の方に「もしもの時」の子どものサポートをお願いし、携帯番号・メールアドレス等を互いに交換している。 |
|---|--|

ウ. その他

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 自治会活動で避難訓練が行われ、安否確認に各家を回りましたが、どの方もきちんと対応してくださり、速やかに訓練が出来ました。 | <ul style="list-style-type: none">● 介護手続をした経験がありますが、自分で情報を集めて、自分で手続きをしないと、生活を送りながらやっていくのは大変でした。お年寄りや身体が不自由な方が支援を受けようと行動していくのは、さらに大変だと思います。役所も受付するだけでなく、<u>もっと情報を発信し、積極的に地域の中に存在して</u>いくと良いと思います。 |
|--|--|